

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成23年度 実施報告書

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	大阪大学
(ザンビア)拠点機関:	ザンビア大学
(南アフリカ)拠点機関:	フリー・ステート大学
(タンザニア)拠点機関:	国際関係センター

2. 研究交流課題名

(和文) : 南部アフリカにおける「平和のオアシス」形成に向けた研究ネットワークの制度化 (交流分野: 政治学)

(英文) : Towards the development of an 'oasis of peace' through the institutionalization of a research network in southern Africa
(交流分野: Politics)

研究交流課題に係るホームページ: <http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/oasisofpeace/>

3. 開始年度

平成23年度(1年目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 大阪大学

実施組織代表者(所属部局・職・氏名): 総長・平野俊夫

コーディネーター(所属部局・職・氏名): 国際公共政策研究科・准教授・
HAWKINS, Virgil

協力機関: なし

事務組織: 大阪大学国際交流オフィス国際交流課国際交流推進係、
大阪大学経済学研究科・国際公共政策研究科事務部

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国(地域)名: ザンビア

拠点機関: (英文) University of Zambia (UNZA)

(和文) ザンビア大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） School of Humanities and Social Sciences ・ Professor ・
PHIRI, Bizeck

協力機関：（英文） Zambia Open University (ZAOU)

（和文） ザンビア・オープン大学

協力機関：（英文） Copperbelt University (CBU)

（和文） コッパーベルト大学

（2）国（地域）名：南アフリカ

拠点機関：（英文） University of the Free State

（和文） フリー・ステート大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） Department of Political Science ・ Senior Professor ・
SOLOMON, Hussein

協力機関：（英文） University of Pretoria

（和文） プレトリア大学

（3）国（地域）名：タンザニア

拠点機関：（英文） Centre for Foreign Relations

（和文） 国際関係センター

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：

（英文） Centre for Foreign Relations ・ Lecturer ・ SHAHARI, Riziki

協力機関：（英文） なし

（和文） なし

5. 全期間を通じた研究交流目標

度重なる武力紛争と人道危機を経験した南部アフリカ地域において紛争を收拾し、持続的な平和と発展を確保することは、最も重要で喫緊の基盤的研究課題の一つといえる。本事業は、平和国家として平和の尊さを知り、武力による問題解決の愚かさを知る日本側研究者が主導し、日本と南部アフリカを結び、紛争解決と平和の持続化に高度な知的貢献のできる研究者の育成とネットワーク化を研究交流目的とする。具体的には、ザンビアのパートナー大学と密接に連携し、ザンビアに南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）を設立し、それと大阪大学大学院国際公共政策研究科（OSIPP）をハブとする日本側の紛争研究コミュニティとをつないだ学術基盤を形成することを構想している。この学術基盤を通

じ、日本側は学術的知見を南部アフリカへの提供するほか、紛争の現場に生きる南部アフリカの研究者との直接的・継続的な知的交流で、若手を含む日本側研究者の研究の深化も期待できる。

南部アフリカでは未だ研究交流・発信の機会が限定的で、長年の紛争と平和活動から得た知識・経験・教訓が豊富に存在するが、相互に共有されていない。ここで地域の研究者間のネットワーク化が制度化できれば、これらの「知的財産」の共有が一気に進む潜在性がある。この点、ザンビアは、まさに「平和のオアシス」として、周りを紛争経験国に囲まれながらも平和と政治的安定を確保しており、地域の若手を含む研究者を結ぶハブとなる格好の環境を備えている。日本の研究者にとっても、ザンビアは、アフリカについて学ぶ上で、紛争の現場情報へのアクセスや現地との研究者との交流のため有益な拠点として機能しうる。

日・ザンビアの両拠点間で共同研究（平成 23 年度には「紛争と仲介」、平成 24 年度には「平和維持・強制」、平成 25 年度は「平和構築：持続的な平和と発展の実現」をトピックに予定）を進め、実際の研究会合に加え、新規に編集するオンライン・ジャーナルやウェブを通じた成果の検討や公表を進める。

持続的な平和と発展に向けて日・南部アフリカ間の高度な知の集積と交換に弾みつけ、「平和のオアシス」を南部アフリカ・ワイドに広げることに日本が手を貸すことができたならば、大きな知的成果と言えよう。

6. 平成 23 年度研究交流目標

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」（仮称）をザンビアに設立することであるが、平成 23 年度にはザンビア大学及びザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設することを目標とする。これには南部アフリカ諸国からのインプットだけでなく、ザンビア国内の研究者間の交流が重要となる。共同研究、ザンビアで実施するセミナー、研究者交流を機に準備を進める。

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた紛争への仲介・和解の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめる。又、オンライン・ジャーナルの設置を通じて、その研究成果を発信し始めることも目標とする。

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成 23 年度の派遣研究者の内、2 人（日本と南アフリカから各 1 名ザンビアに派遣する研究者）を若手研究者とする。これらの若手研究者は共同研究およびセミナーに参加する。また、研究者の派遣先の大学で講演会を開くことを通じて、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることも目標とする。

7. 平成23年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めて下さい。)

7-1 研究協力体制の構築状況

本事業の最終的目標のひとつは南部アフリカ地域ワイドで紛争と平和に関する研究拠点となる「平和のオアシス研究所」(仮称)をザンビアに設立することであるが、平成23年度にはザンビア大学及びザンビア・オープン大学を中心に設立準備室を開設することを目標としていた。平成24年2月、ザンビア・オープン大学の副総長の合意のもと、無事設立準備室を開設した。ここでは、参加研究者および事務補佐が研究所のための計画を進め始めている。ザンビアの協力機関であるザンビア・オープン大学が中心となるが、ザンビア側のコーディネーターが監督となっている。

7-2 学術面の成果

学術的観点からの目標としては、共同研究とセミナーを通じて、南部アフリカの国々がこれまで経験してきた紛争への仲介・和解の試みに関する分析を行い、その成果と課題を明らかにし、まとめることを目標にしていた。平成23年9月、ザンビアの首都ルサカで南部アフリカにおける仲介・和解というテーマでセミナーを開催した。共同研究の参加研究者の多くがセミナーに向けて研究を推め、12人が学術論文を用意した。これらの論文は多様な側面から仲介・和解を捉え、ミクロからマクロレベル、地域内および地域外からの教訓などが分析の対象となった。この研究成果を発信するため、オンライン・ジャーナルを設置した。ジャーナルの第1巻第1号が現在準備中であり、平成24年4月に出版される予定である。もちろん、研究成果を他の学術誌に掲載している(もしくは掲載する予定)場合もある。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をインフォーマルに公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ(Southern African Peace and Security Blog)を設置した。

7-3 若手研究者養成

若手研究者養成という観点からの目標としては、平成23年度の派遣研究者の内、2人(日本[1-6]と南アフリカ[3-4]から各1名ザンビアに派遣する研究者)を若手研究者とする予定であった。ところが、年度の途中からさらに2人の若手研究者(マラウイ[2-16]とタンザニアに所[4-2]に所属する研究者)を巻き込むことに成功し、2人ともザンビアでのセミナーに参加した。セミナー後の共同研究のために南部アフリカ内に派遣した研究者もこの2人の若手研究者であった。また、研究者が派遣先の大学で講演会を開くことを徹底し、日本においても、南部アフリカにおいても、派遣がある際、学生が対象となった講演会が開かれ、日本及び南部アフリカ内の若手研究者の南部アフリカにおける紛争と平和の問題に関する意識・関心を高めることに貢献した。

7-4 社会貢献

研究活動及び成果は研究者同士だけでアクセスするものではなく、関心のある政策作成者、NGO、一般市民も利用でき、議論に参加することができるように、様々な工夫をした。セミナーでは、積極的に政策作成者（特にザンビア政府が各国大使館）やNGOに参加を呼びかけた。事業のホームページも充実させ、できる限り情報を一般公開している。例えば、研究交流の際に行われる講演会のプレゼン資料をホームページに載せている。さらに、参加研究者がインターネットを通じて、研究の成果をわかりやすい形で公開し、リアルタイムに交流ができるために、ブログ（Southern African Peace and Security Blog）を設置した。

7-5 今後の課題・問題点

平成23年度の最大の課題は大規模の紛争を経験してきた南部アフリカ国々からの参加が少なかったことである。例えば、セミナーではアンゴラ、コンゴ民主共和国、モザンビークからの研究者が参加できなかった。この問題には様々な事情が重なったが、セミナーや共同研究は基本的に英語で行われるため、フランス語・ポルトガル語が公用語となっているこれらの国の研究者が多少不利である。ところが、平成23年3月、コーディネーターはモザンビークで研究交流を行い、平成24年度にはアンゴラでも研究交流を行う予定である。すでに、上記三カ国から平成24年度のセミナーに参加できる研究者とメール、電話などで協議を進めている。

また、平成23年度に共同研究のための南部アフリカ内で交流した研究者の人数は少なかった。初年度であったため、ネットワークの基盤形成を優先したというのがひとつの要因であった。平成24年度は南部アフリカ内の交流を増やす予定である。

7-6 本研究交流事業により発表された論文

平成23年度論文総数	0本
相手国参加研究者との共著	0本

（平成23年度の研究成果であった多くの論文は平成24年5月に公開予定のオンライン・ジャーナルで発表される予定である。）

8. 平成23年度研究交流実績概要

※「10. 平成23年度研究交流実績状況」の概要について記載してください。

8-1 共同研究

平成23年度の共同研究のテーマは「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」(Mediation and Peacemaking in Southern Africa)とした。本事業の企画に参加して

いない南部アフリカ及び日本の紛争研究者を含め、参加を呼び掛けた。参加者は紛争仲介・和解の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例を中心に研究を進めた。

これらの研究者が交流するためのウェブサイトを設置した。このウェブサイトを通じた意見交換・協議及び研究者の派遣によって、共同研究の計画を固め、下記のセミナーに向けて研究を進めた。このウェブサイトにもオンライン・ジャーナルを設置し、研究の成果を発信する予定であるが、参加研究者は研究の成果を論文の形にし、現在第1巻第1号をまとめている段階である。

共同研究の計画・実施、調査のために、日本から研究者がザンビアを訪問した。又、タンザニア及びマラウイから副拠点となる南アフリカへの派遣も実施した。派遣先では、研究の成果を共有するための講演会も実施した。

8-2 セミナー

「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」をテーマにした共同研究の成果を協議し、まとめ、発信するために、2011年9月、ルサカ（ザンビア）で3日間のセミナーを開催した。拠点機関となっているザンビア大学の監督のもと、日本側のコーディネーター及び協力機関であるザンビア・オープン大学が中心となり実施した。

日本から2名の研究者、南アフリカから3名、タンザニアから2名、そしてその他の南部アフリカ諸国（ボツワナ、マラウイ）から各1名の研究者が参加者となった。また、ザンビア国内の参加者としては、研究者のみならず、実践に携わる政策決定者や NGO などからも積極的な参加があった。セミナーの形式としては、個人によるプレゼンテーション及びラウンドテーブルの協議を用いた。セミナーの成果をオンライン・ジャーナルで発信した。

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

研究者交流のために、日本と南部アフリカの間、研究者の派遣をする。研究者交流及びネットワーク基盤形成のため、日本から南部アフリカ（ザンビア）に2名を派遣した。さらに、南部アフリカ（南アフリカ）から日本には1名の研究者を派遣し、講演会及び派遣先での研究者・学生との交流を実施した。研究者交流を通じて、日本・南部アフリカにおける若手研究者及び学生に南部アフリカの紛争と平和の問題への関心を高めた。

また、「平和のオアシス研究所」の設立を目指し、ザンビア大学及びザンビア・オープン大学が中心となり、日本側のコーディネーター及び日本から参加研究者（計2名）を派遣し、そのサポートを得て、設立準備室を開設した。その2名はその後、ネットワーク強化及び平成24年度の事業実施に向け、南アフリカとモザンビークにも訪問した。

9. 平成23年度研究交流実績人数・人日数

9-1 相手国との交流実績

派遣先		日本	ザンビア	南アフリカ	タンザニア	モザンビーク	合計
派遣元		<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	
日本 <人/人日>	実施計画		5/35				5/35
	実績		6/31 (1/3)	2/8		2/10	10/49 (1/3)
ザンビア <人/人日>	実施計画			1/7			1/7
	実績						0/0
南アフリカ <人/人日>	実施計画	1/21	3/14				4/35
	実績	1/22	3/12				4/34
タンザニア <人/人日>	実施計画		2/9				2/9
	実績		2/10	1/21			3/31
マラウイ (ザンビア側) <人/人日>	実施計画		4/18				7/33
	実績		1/5	1/6			2/11
ボツワナ (ザンビア側) <人/人日>	実施計画		3/15				
	実績		1/4				1/4
ナミビア (南アフリカ側) <人/人日>	実施計画		1/5				1/5
	実績						0/0
合計 <人/人日>	実施計画	1/21	18/96	1/7	0/0	0/0	20/124
	実績	1/22	13/62 (1/3)	4/35	0/0	2/10	20/129 (1/3)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。（なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。）

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。（合計欄は（ ）をのぞいた人・日数としてください。）

9-2 国内での交流実績

実施計画	実績
5/5 <人/人日>	0/0 (5/5) <人/人日>

10. 平成23年度研究交流実績状況

10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成23年度	研究終了年度	平成23年度	
研究課題名	(和文) 南部アフリカにおける紛争仲介・和解 (英文) Mediation and Peacemaking in Southern Africa					
日本側代表者氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授 (英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor					
相手国側代表者氏名・所属・職	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授 Solomon, Hussein・フリー・ステート大学・教授 Shahari, Riziki・国際関係センター・講師					
交流人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先	日本 〈人/人日〉	ザンビア 〈人/人日〉	南アフリカ 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
	派遣元					
	日本 〈人/人日〉	実施計画 実績				
	ザンビア 〈人/人日〉	実施計画 実績		1/7		1/7
	南アフリカ 〈人/人日〉	実施計画 実績	1/4			1/4
	タンザニア 〈人/人日〉	実施計画 実績	1/4			1/4
	マウイ (ザンビア側) 〈人/人日〉	実施計画 実績	2/8		1/21	2/8 1/6
	合計 〈人/人日〉	実施計画 実績	4/16	1/7		5/23 2/27
	② 国内での交流					0/0 人/人日
23年度の 研究交流活動	Mzuzu大学のMhango氏(2-16)は6日間、Stellenbosch大学のSwart氏(3-4)と協議しながら、研究を進めた。Dar es Salaam大学のWalwa氏(4-2)は3週間、フリー・ステート大学に編入するために研究を進め、研究計画書を作成し受験した。					
研究交流活動成果	Mhango氏は調査の成果を執筆中の論文に取り組み、ひとつの論文を完成させた。Walwa氏は3週間の研究交流を行い、フリー・ステート大学の博士後期課程への入試を無事合格し、編入が決まった。Solomon教授(3-1)の指導のもと研究をすることになった。					
日本側参加者数	2名 (13-1 日本側参加者リストを参照)					
(ザンビア)国(地域)側参加者数	12名 (13-2 (ザンビア)国(地域)側参加研究者リストを参照)					

(南アフリカ) 国 (地域) 側参加者数	
4 名	(13-3 (南アフリカ) 国 (地域) 側参加研究者リストを参照)
(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数	
2 名	(13-4 (タンザニア) 国 (地域) 側参加研究者リストを参照)

10-2 セミナー

—実施したセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 南部アフリカにおける紛争仲介・和解
	(英文) Mediation and Peacemaking in Southern Africa
開催時期	平成23年9月23-25 (3日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ザンビア、ルサカ、Chrismar Hotel
	(英文) Zambia, Lusaka, Chrismar Hotel
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) ホーキンス、ヴァージル・大阪大学・准教授
	(英文) Hawkins, Virgil・Osaka University・Associate Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (□日本以外での開催の場合)	Phiri, Bizeck・ザンビア大学・教授

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ザンビア)	
日本 〈人/人日〉	A.	2/11
	B.	0/0
	C.	0/0
ザンビア 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	4/16
南アフリカ 〈人/人日〉	A.	3/12
	B.	0/0
	C.	0/0
タンザニア 〈人/人日〉	A.	2/10
	B.	0/0
	C.	0/0
マラウイ (ザンビア側) 〈人/人日〉	A.	1/5
	B.	0/0
	C.	0/0
ボツワナ (ザンビア側) 〈人/人日〉	A.	1/4
	B.	0/0
	C.	0/0
合計 〈人/人日〉	A.	9/42
	B.	0/0
	C.	4/16

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C.本事業経費から負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。

セミナー開催の目的	平成 23 年度の共同研究のテーマである「南部アフリカにおける紛争仲介・和解」(Mediation and Peacemaking in Southern Africa) の成果をまとめ、発信することをセミナーの目的とする。具体的には、紛争仲介・和解の概念・課題、あるいは南部アフリカの地域における紛争仲介・和解の事例について理解を深めることである。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて協議を行い、準備を進めることも目的とする。		
セミナーの成果	紛争仲介・和解をテーマにしたセミナーは予定通り実施された。「地域レベル」、「国レベル(ザンビア)」、「国際レベル」からの視点と、3つのセッションに分け、12人による研究発表が行われた。その後、仲介・和解に関する議論をまとめたラウンドテーブルセッション、そして最後には今後の交流・コラボレーションに関するラウンドテーブルセッションが実施された。セミナーで発表されたペーパーを含めた研究成果をオンライン・ジャーナルで発信していくことが決まり、オンライン・ジャーナルを立ち上げ・運営するにあたり、役割分担およびジャーナルの形式も決定された。研究者に加え、実践に携わっているザンビア政府関係者、NGOからの活発な参加もあり、実践レベルにも通用する充実した議論となった。また、「平和のオアシス研究所」の設立に向けて議論を行い、設立準備室の具体的な構造が打ち出された。		
セミナーの運営組織	セミナーの運営はザンビア側のコーディネーター(ザンビア大学の Phiri 教授)の監督のもと、ザンビア・オープン大学のコーディネーターおよび大阪大学のコーディネーターによって行われた。事務補佐はザンビア・オープン大学の事務職員が担った。		
開催経費 分担内容 と金額	日本側	内容	金額
		国内旅費	5,210 円
		外国旅費	1,812,828 円
		その他	86,991 円
		合計	1,905,029 円
	(ザンビア) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円
	(南アフリカ) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円
	(タンザニア) 国 (地域) 側	内容	金額 0 円

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

1 相手国との交流

派遣先		日本 〈人/人日〉	ザンビア 〈人/人日〉	南アフリカ 〈人/人日〉	モザンビーク (ザンビア側) 〈人/人日〉	計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉	実施計画		3/25			3/25
	実績		4/20 (1/3)			2/8
ザンビア 〈人/人日〉	実施計画					
	実績					
南アフリカ 〈人/人日〉	実施計画	1/21				1/21
	実績	1/22				1/22
合計 〈人/人日〉	実施計画	1/21	3/25			4/46
	実績	1/22	4/20 (1/3)			2/8
2 国内での交流		0/0 (5/5) 人/人日				

所属・職名 派遣者名	派遣・受入 先 (国・都市・機関)	派遣時期	用務・目的等
1 相手国との交流			
大阪大学・教授・星野俊也	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2011年8月	ザンビアで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2011年8月	ザンビアで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。セミナーの準備・打ち合わせ
フリー・ステート大学・教授・フセイン・ソロモン	日本・大阪・大阪大学	2011年11月～12月	日本で紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。また、日本の大学で南部アフリカの紛争・平和に関する講演会を実施。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2012年2月	ザンビアで「平和のオアシス研究所」のための設立準備室を開設。オンライン・ジャーナルを広く広報し、投稿の呼びかけ。
大阪大学・博士後期課程・ファロ・サライバ・ルイ	ザンビア・ルサカ・ザンビア大学	2012年2月	ザンビアで「平和のオアシス研究所」のための設立準備室を開設。オンライン・ジャーナルを広く広報し、投稿の呼びかけ。

大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	フリー・ステート大学	2012年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。講演会を実施
大阪大学・博士後期課程・ファロ・サライバルイ	フリー・ステート大学	2012年2月	南アフリカで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	エドワード・モンドレーン大学等	2012年2月～3月	モザンビークで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。講演会を実施
大阪大学・博士後期課程・ファロ・サライバルイ	エドワード・モンドレーン大学等	2012年2月～3月	モザンビークで紛争・平和を研究する研究者と交流をし、情報共有・意見交換。
2 国内での交流			
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	日本・大阪・大阪大学	2011年12月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授と栗本英世教授による講演会にコメンテーターとして参加。
大阪大学・教授・栗本英世	日本・大阪・大阪大学	2011年12月	講演者として、「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授と講演会に参加。
大阪大学・教授・松野明久	日本・大阪・大阪大学	2011年12月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授による講演会にコメンテーターとして参加。
大阪大学・教授・星野俊也	日本・大阪・大阪大学	2011年12月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授による講演会にコメンテーターとして参加。
大阪大学・准教授・ヴァージル・ホーキンス	日本・大阪・大阪大学	2011年12月	「相手国との交流」で来日しているフセイン・ソロモン教授による講演会に司会として参加。

1 1. 平成23年度経費使用総額

	経費内訳	金額 (円)	備考
研究交流経費	国内旅費	28,610	
	外国旅費	4,315,714	
	謝金	0	
	備品・消耗品購入費	265,550	
	その他経費	156,991	
	外国旅費・謝金に係る消費税	220,135	
	計	4,987,000	
委託手数料		498,700	
合 計		5,485,700	

1 2. 四半期毎の経費使用額及び交流実績

	経費使用額 (円)	交流人数<人/人日>
第1四半期	0	0/0
第2四半期	1,040,590	11/54
第3四半期	1,494,085	1/22
第4四半期	2,452,325	8/53
計	4,987,000	20/129